

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）

4か年の振り返り

[平成26（2014）年度～平成29（2017）年度]

横浜市では「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」（平成23年4月策定、平成27年1月改定）により、市民が身近な生き物とふれあい、生物多様性の知識を深め、行動を起こしていくための取組を進めてきました。

2025年度を目標年度とし、将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」としています。この「将来像」を実現するため、「重点アピール」、「取組方針」及び2017年度（平成29年度）までの「具体的取組と目標」から構成されています。

平成29年度に「具体的取組と目標」の計画期間が満了したので、4か年の取組を振り返り、とりまとめました。

将来像の実現に向けた4つの取組方針と具体的取組

方針1～普及啓発～ 誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます

イベントや環境教育講座等の開催をはじめ、自然や生き物への理解を深め、環境行動につなげるきっかけづくりを着実に進めました。また、活動団体・企業への支援や、連携したプログラムの実施等により、様々な主体による環境活動の取組が活性化しました。

一方、「2018年環境に関する市民意識調査」の結果では、生物多様性の認知度は4割程度です。また、関心のある環境問題として「生物多様性」を挙げる市民は3割程度でした。

今後も、市民、企業、そして子どもたちに理解と行動の輪を広げるため、継続的かつ効果的に普及啓発の取組を進める必要があります。特に、自分たちの身近な問題として伝えることが大切です。

◆方針1の評価 **34の目標のうち32（94%）**が目標を上回って又は、おおむね目標どおり進みました

◆主な取組実績

取組名	目標	4か年の主な実績
■人づくりと場づくりの推進		
環境行動の実践に向けた広報・啓発	推進	・知ろう！伝えよう！生きもののつながりキャンペーンの開催
森の楽しみづくり	イベント実施及び広報活動：144回	・イベント等の実施：469回
生物多様性でYES！	参加者数：10,500人/年	・環境教育出前講座の実施 参加者数：延べ34,520人
森づくり活動団体への支援	・市民の森等：延べ40団体 ・公園：延べ40団体	・市民の森等：延べ108団体 ・公園：延べ36団体
市民が農を楽しむ支援する取組の推進	・農体験教室などの実施：400回 ・農体験講座の開催：20回	・農体験教室などの実施：356回 ・農体験講座の開催：20回
■動物園等での環境教育		
動物園等における環境教育	環境教育事業数：330件/年	・動物園での環境教育事業 1,454件 ・繁殖センターでの環境教育事業 99件



環境教育出前講座



森づくり活動団体への支援



家族で学ぶ農体験講座
(保土ヶ谷区、環境活動支援センター)

方針2～保全・再生・創造～ 地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます

横浜みどりアップ計画を中心とした樹林地や農地の保全・再生や、市街地での新たな緑の創出が進んだことにより、多様な自然環境や生き物の生息・生育環境の保全が進みました。

河川や水辺でも、生物多様性に配慮した保全・再生の取組が展開され、良好な水辺環境づくりが進んでいます。

動物園、繁殖センターでは、希少種の保全・繁殖に取り組み、種の多様性の保全に貢献しました。

今後も、生物多様性豊かな自然環境を後世につなげるため、横浜みどりアップ計画等と連携した保全・再生・創造の取組を推進する必要があります。また、多様な種を保全するため、動物園による、希少動物の保護・繁殖の取組も続けていく必要があります。これらの保全・再生・創造の取組の意義や成果を伝え、地域の身近な環境に関心を持っていただくことも大切です。

◆方針2の評価 **38の目標のうち33（87%）**が目標を上回って又は、おおむね目標どおり進みました

◆主な取組実績

取組名	目標	4か年の主な実績
■保全を中心とした取組		
水田の保全	水田の保全承認 ：123ha	・水田の保全承認：119.8ha
緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	緑地保全制度による指定 ：400ha	・指定の拡大：328.4ha ・買取り：88.5ha
森づくりガイドライン等を活用した森の育成	・維持管理 推進 ・保全管理計画策定 樹林地：12か所 公園：8か所	・森づくりガイドライン等を活用した維持管理 樹林地：延べ489か所、公園：延べ72か所 ・保全管理計画の策定 樹林地：12か所、公園：13か所
横浜市及び国内に生息する希少動物の保全の取組	推進	・市内産カエル飼育繁殖技術の向上 ・ライチョウ飼育繁殖技術確立の研究を継続 ・ミゾゴイの繁殖成功
■再生を中心とした取組		
生物多様性に配慮した河川・雨水調整池の管理	実施	・関係区局による雨水調整池ビオトープ維持管理プロジェクトの実施 ・小学生等を対象にした生き物観察会や市職員向けの維持管理研修の実施
多自然川づくり	推進	・魚道の整備をする等、生物多様性に配慮した施工の実施
多様な生き物を育む場づくり（アユが遡上する川づくり）	帷子川モデルプランの策定	・帷子川アクションプランを策定 ・「はまっこアユ遡上プロジェクト」ワーキングの開催7回
■創造を中心とした取組		
地域緑のまちづくり	46地区で推進 (2014～2018年度)	・26地区の団体と新たに協定を締結し、計42地区で緑化整備や地域緑化活動に助成
都心臨海部の緑花による賑わいづくり	推進	・みなとみらい21地区から山下地区を中心とした延べ23か所で緑のネットワーク形成を推進 ・山下公園、港の見える丘公園、グランモール公園、新港中央広場など延べ28か所において、緑や花の良好な管理を推進



保全された水田(泉区)



新港中央広場の花壇の維持管理(中区)



帷子川での「はまっこアユ遡上プロジェクト」のワーキングの様子(旭区)

方針3～しくみづくり～ 保全や評価などに取り組むしくみづくりをすすめます

生物調査の継続的な実施により、生物生息状況等のデータ蓄積が進みました。なかでも、小学生による生き物調査は、子どもたちの自然体験の機会を増やし、楽しみながら学ぶ効果も発揮しました。今後も、本市の自然環境を把握し施策に活用するため、生き物調査を継続していくとともに、企業や大学・研究機関等との連携を進めていく必要があります。また、これまでも実施してきた子どもたちが生き物調査に参加するような取組を、市民・企業・学校等の主体的な活動へとつなげることも大切です。

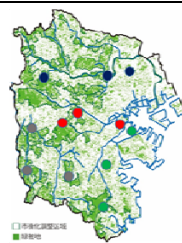
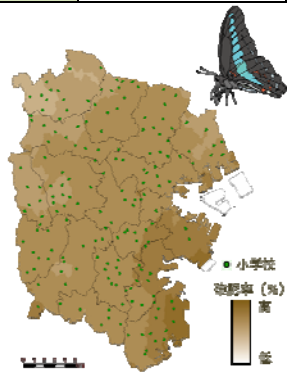
◆方針3の評価 **5つの目標全て（100%）** がおおむね目標どおり進みました

◆主な取組実績

取組名	目標	4か年の主な実績
■生物調査データの継続的な蓄積と活用		
市民参加の生き物調査の推進	推進	・小学生対象アンケート調査 こども「いきいき」生き物調査を実施 延べ約680校、延べ48,000人超の児童の参加
生物生息状況モニタリング調査	継続実施	・陸域・水域生物調査等を継続実施し、市内の生物生息状況を把握
■市役所による生物多様性の取組の推進		
横浜市ISO環境マネジメントシステムへの反映	推進	・横浜市環境マネジメントシステムの運用や、市役所の全職員を対象とした環境研修の実施



こども「いきいき」生き物調査 2017
調査票及び調査結果の一例(アオスジアゲハの分布)



調査年度	緑の10大拠点	緑の10大拠点の周辺	都市化が進む市街地
2012・2016	水取沢市民の森	久良岐公園	横浜・山下公園
2013・2017	新治市民の森	新横浜公園	獅子ヶ谷市民の森
2014・2018	こども自然公園	陣ヶ下溪谷公園	野毛山公園
2015	瀬谷霧室公園付近・天王森泉公園付近・舞岡公園		

陸域生物調査対象地域



方針4～まちづくりと経済活動～ 生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます

みなとみらい21地区のまちづくりや、海づくり活動等、市民団体・企業等と連携した取組により、豊かな環境のあるまちづくりを進めました。

小学生へのエコ活動の呼びかけや地産地消の取組など、企業等による生物多様性分野への連携・参加が、広がりにつつあります。

今後も、横浜の都市の魅力を高めるため、豊かな水・緑環境のあるまちづくりを継続するとともに、企業等が主体的に行う生物多様性の取組に対する支援や連携も、続けていく必要があります。まちづくりや経済活動の取組を通して、身近なことから生物多様性に配慮した社会システムやライフスタイルへの転換につなげられることに、気付いてもらうことも大切です。

◆方針4の評価 **12の目標のうち11（92%）** がおおむね目標どおり進みました

◆主な取組実績

取組名	目標	4か年の主な実績
■生物多様性に貢献するまちづくりの推進		
みなとみらい 2050 プロジェクトの推進	推進	・みなとみらい21地区を中心に公民連携によるまちづくりを推進
都心臨海部の海づくり	推進	・山下公園前海域で、浅場の造成などの環境整備を民間企業との共同研究により実施 ・世界トライアスロンシリーズ横浜大会のEXPO等に参加し、水質浄化等の事業のPRを実施 ・自動車道護岸沿いの水域において、アマモ場形成の実験を実施

取組名	目標	4か年の主な実績
金沢区野島海岸周辺の海づくり	推進	・市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 参加人数：延べ2,735人 ・野島青少年研修センターでの自然体験プログラムの提供 参加人数：延べ39,034人
金沢区白帆地区の海づくり	推進	・アマモの花枝採取、自然学習イベントの実施
横浜ブルーカーボン事業の推進	推進	・海洋資源を活用した地球温暖化対策の調査・検討 ・カーボン・オフセット、クレジットスキームを検討し、カーボン・オフセットの独自制度を運用 ・事業の広報や、環境啓発イベントを開催
■企業による社会参加の拡大と生物多様性に貢献する経済活動の支援		
企業とのコミュニケーション	推進	・横浜市環境保全協議会、横浜商工会議所、国連WFP等と連携し、「こども『エコ活。』大作戦！」を実施等
市民や企業等との連携 (地産地消の推進)	企業等との連携：50件 (2014～2018年度)	・企業等との連携：48件



グリーントライアスロンでの水質浄化等の事業PR



わかめ収穫イベント



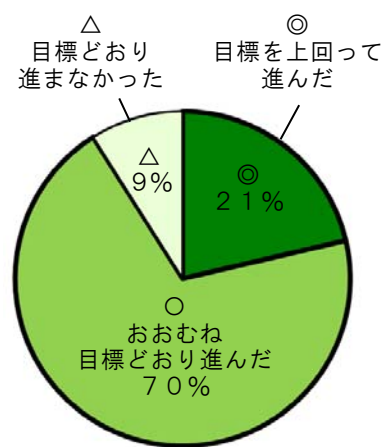
企業と連携した地産地消

4か年の取組実績の評価

本計画に掲げた**89の目標のうち81(91%)**が目標を上回って又は、おおむね目標どおり進みました。

- ◆ **4か年の評価**：目標に対する達成度を評価しました
- ◎：目標を上回って進んだ（目標に対して100%以上）
 - ：おおむね目標どおり進んだ（目標に対して75%以上100%未満）
 - △：目標どおり進まなかった（目標に対して75%未満）

取組方針	◎	○	△
方針1～普及啓発～	7	25	2
方針2～保全・再生・創造～	12	21	5
方針3～しくみづくり～	0	5	0
方針4～まちづくりと経済活動～	0	11	1
【計】	19 (21%)	62 (70%)	8 (9%)
	81 (91%)		



4か年 [平成26(2014)年度～平成29(2017)年度]の振り返り及び取組実績一覧は、横浜市ホームページに掲載しています。 [生物多様性横浜行動計画\(ヨコハマbプラン\)](#) [検索](#)